保証について （詳しくは保証書をご参照ください。）

- **保証修理**

材料上あるいは製造上の不具合が発生した場合には、無償で修復させていただきます。
期間は登録または届出した日から1年間です。

- **下記の消耗品の交換は実費をいただきます。**

スパークプラグ
エアクリーナエレメント
ランプ類
ブレーキパッド
フューエルスレーナ
ヒューズ
ブレーキシュー
ドライブチェーン
モータ類のブラシ
クラッチディスク
ドライブベルト
ワイパーブレード
オイルクリーナ
ガスケット
パッキン類
ゴム類
などこれに類するもの。

- **下記の油脂類の補充、交換は実費をいただきます。**

オイル
ラジエータ液
ガソリン
ブレーキ液
グリース
バッテリ液
クラッチ液
その他の潤滑油
ウオッシャ液
などこれに類するもの。

- **保証修理の受け方は**

1. 保証修理をお受けになるときは必ず取扱マニュアル（保証書・メンテナンスレコード）をご提示ください。ご提示がない場合は保証修理をいたしかねます。
2. お買上げのSYM販売店に保証修理をお申し付けください。
   ただし、お申し付けになる前に保証書の内容(特に保証できない事項)をよくお読みください。

- **点検整備は怠りなく**

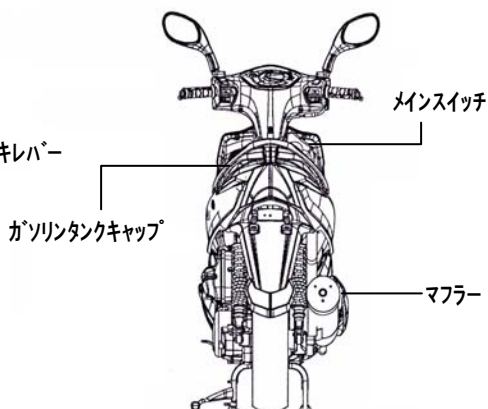
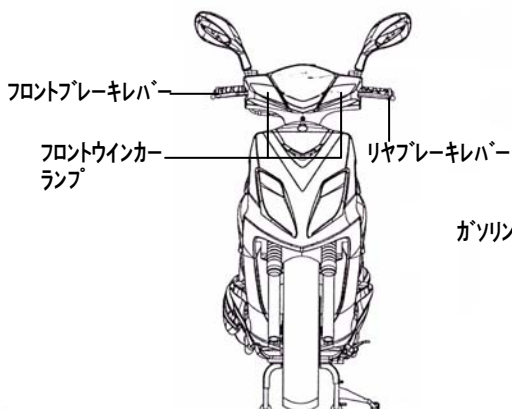
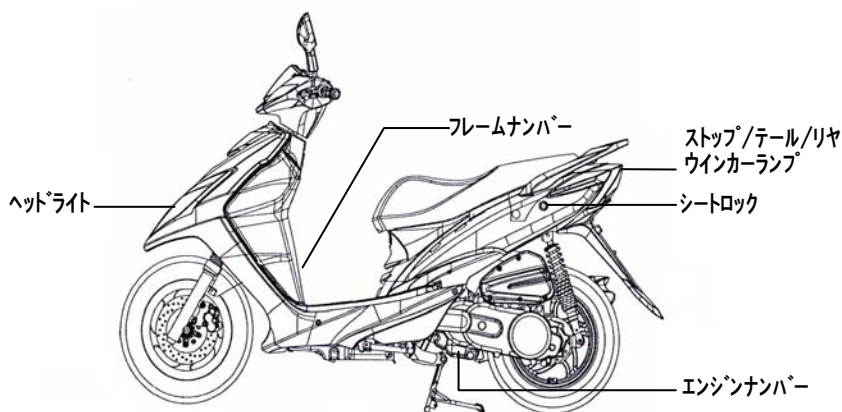
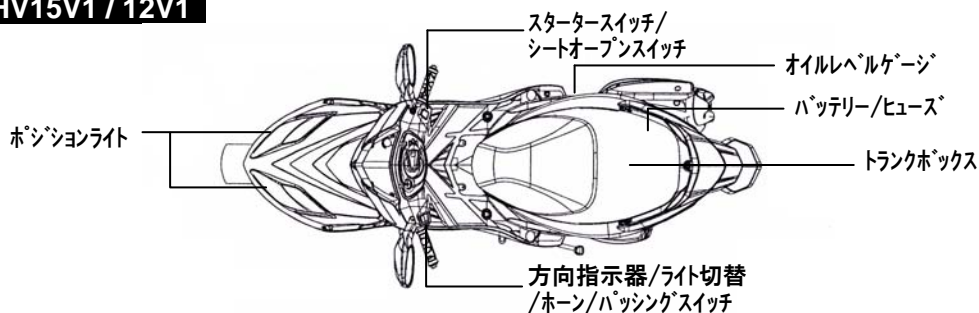
取扱マニュアル（保証書・メンテナンスレコード）に記載してある各種点検は安全・快適にご使用いただくための必要最小限の点検です。この点検を怠ったり、不適当な取扱などが起因して不具合が発生した場合、また次のことが守られていない場合、保証修理をいたしかねることがありますのでご了承ください。

1. 取扱マニュアル等に示す取扱方法に従った正しい使用
2. 日常点検の実施
3. 法令またはSYMが指示する定期点検整備の実施
4. 取扱マニュアル（保証書・メンテナンスレコード）に示す定期交換部品の交換
5. 当該取扱マニュアル（保証書・メンテナンスレコード）の保持、ご提示
6. 不正改造

HV15V1 / 12V1

スタータースイッチ/
シートオープンスイッチ
オイルレベルゲージ
バッテリー/ヒューズ
ポジションライト
トランクボックス
方向指示器/ライト切替
/ホーン/パッシングスイッチ

フレームナンバー
ストップ/テール/リヤ
ウインカーランプ
ヘッドライト
シートロック
エンジンナンバー

フロントブレーキレバー
メインスイッチ
フロントウインカー
ランプ
リヤブレーキレバー
ガソリンタンクキャップ
マフラー

このマニュアルでは、このスクーターの正しい使い方とともに安全走行、簡単な点検方法などをご紹介しております。より快適で安全な走行のためにも、車両の取扱いに慣れた方も独自の装備や取扱いがありますので、必ずこの取扱説明書をお読み下さい

お買い上げの時にはこの説明書をもとに以下の事について SYM 特約店より説明をお受け下さい。
- 正しいスクーターの使い方
- 保証内容及び保証期限
- 乗車前の点検とメンテナンス

- **車両の仕様、その他の変更によりこのマニュアルの内容と実車が一致しない場合がございます。ご了承下さいますようお願い申し上げます。**

お買い上げいただきありがとうございます

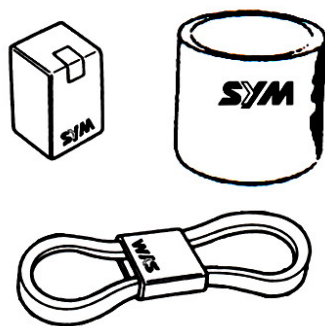
お客様のスクーターの性能を最大限に活かすために、定期点検及びメンテナンスは必ず行って下さい。新車の場合、最初の 300km 走行じにお買い上げの SYM 特約店に車両をお持込のうえ、初期点検をお受け下さい。その後は、走行 1000km 毎に定期点検を SYM 特約店で行って下さい。

以下の事にご注意下さい

1.ガソリンはレギュラーガソリン(オクタン価 90 以上)をご使用下さい。
2.エンジンオイルは SAE 10W-30 API SH/CD または同等以上のエンジンオイルをご使用下さい。
3.オーバーヒート防止のために長時間の連続しての高速運転時は避けて下さい。
3.定期メンテナンススケジュールにしたがって、定期的な点検とメンテナンスを受けて下さい。
4.環境汚染防止のためにも、排気系統の改造は絶対にしないで下さい。
5.注意事項：点火システム、充電システム、燃料システムは排気ガス制御システムの正常な作動に関係しています。
6.エンジンがうまく作動しない時は、SYM 特約店に車両をお持込になり点検修理を依頼して下さい。

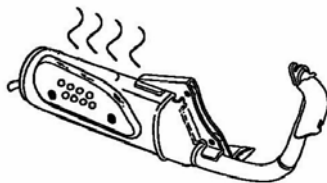
- **必ず無鉛レギュラーガソリン(オクタン価 90 以上)をご使用下さい。**

純正スペアパーツの使用

二輪車の最高の性能を維持する為に各パーツの品質、素材、精密性はもともとのデザインが要求するものに適合する必要があります。“SYM 純正スペアパーツ”は現二輪車に使用された物と同品質の素材が使われています。高度な技術と厳格な品質管理を通じて生産される“SYM 純正スペアパーツ”を SYM 特約店からご購入下さい。廉価品や共用パーツを使用された場合はメーカー保証の対象とはなりません。またトラブルの原因や二輪車の性能を低下させる恐れがあります。

安全運転

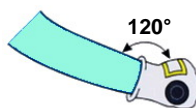
走行時にはリラックスして、運転に適切な服装であることが重要です。交通ルールを守り、正しく運転しましょう。一般的に、多くの人は新車購入時にはとても慎重に運転されますが、慣れてくると無謀な運転をしがちになり、事故やトラブルを引き起こしやすくなります。

忘れないで下さい
- ヘルメットは必ず着用して下さい
- 走行中は携帯電話は使用しないで下さい
- 制限速度を守って下さい
- 定期点検とメンテナンスを実施して下さい

マフラー高温注意！！

警告！！
- 二人乗りをする場合は左側から乗車し、火傷を防止するために必ずステップの上に足を置いてください。
- 走行後、マフラーは大変熱くなっています。点検やメンテナンス時は火傷に注意して下さい。また、駐車する場合もほかの人がマフラーで火傷をしないように充分に注意して下さい。

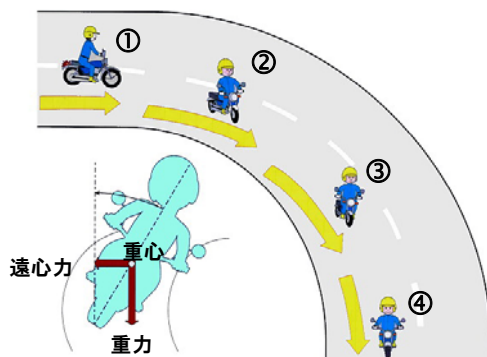
ドライビング

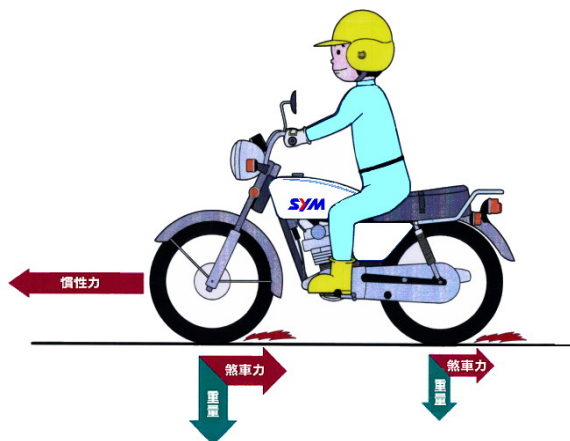
運転姿勢:

- 走行に当たっては、身体の使用箇所、すなわち腕、手のひら、腰やつま先を常にリラックスさせ、一番楽な姿勢で乗るようにしましょう。必要なときに素早く反応できるように常に心がけて乗りましょう。運転者の姿勢は安全運転に大きく影響します。常に身体の重心がシートの真ん中にあるようにして下さい。もし、身体の重心がシート後部にあると前輪への負荷が減り、ハンドルが取られやすくなります。不安定なハンドルでの二輪車走行は大変危険です。

カーブ走行時のポイント

- カーブを曲がる時には、運転者と車体が同一方向に傾けるとターンしやすくなります。反対に運転者が身体と車体を傾けないと不安定になります。

カーブ走行要領：

①.カーブ手前でしっかり減速する。
②.カーブ走行中は速度を一定に保つ。
③.カーブを出る時は適度に加速し、安定走行を保ちましょう。
④.カーブを出た後は前後の安全を確認してから加速しましょう。

ブレーキの要領:

- ブレーキをかける時は、前後輪ブレーキを同時にかけましょう。二輪車の性格上、片方だけかけると、不安定になり転倒しやすくなります。車体をまっすぐに保ち、急ブレーキは避けて下さい。タイヤがロックされます。

悪路走行時の注意点:

- でこぼこ道、未舗装道路、路面変化の激しい山道等では不安定な走行となりがちです。スムーズに走行できるように予め道路状況を把握してスピードを落とし、姿勢の安定を保ち、肩の力を抜いてハンドル操作をしましょう。

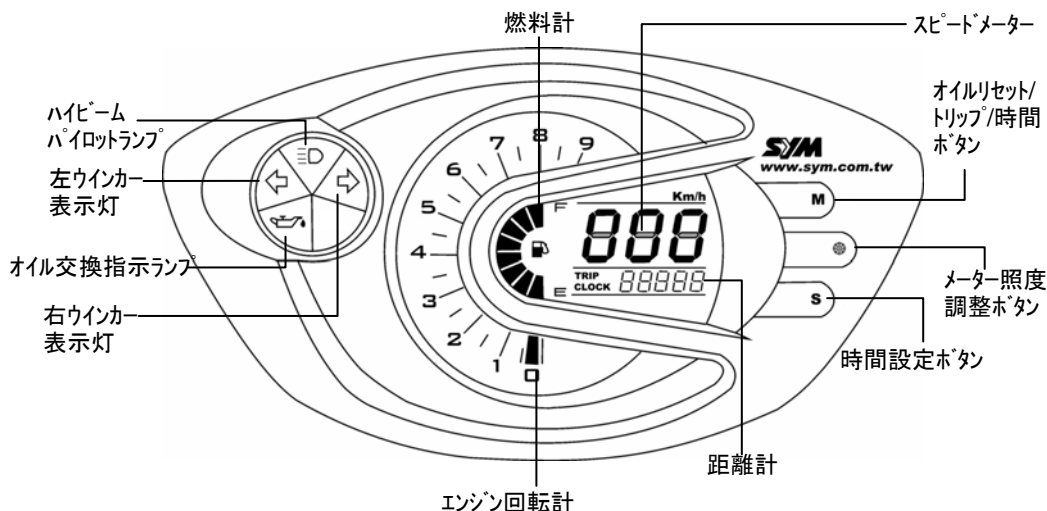
注意！

- ウエス等燃えやすい物をボデイカバーとエンジンの間に置かないで下さい。部材が火気により損傷を受ける恐れがあります。
- フロントボックスに荷物を詰み過ぎないで下さい。ハンドル操作に影響を及ぼします。
- 荷物を積むと、積まない時に比べてハンドルの感覚が変わりますから注意しましょう。積みすぎるとハンドルがふられ運転を誤る事がありますので、積み過ぎに注意しましょう。
- スクーターの改造はその構造や性能に影響を与え、寿命が短くなる恐れがあります。

  また、保安基準に適合しない改造は絶対にしないで下さい。改造されたスクーターは保証修理対象外になりますので、ご注意下さい。

〔 以下の説明は SYM ファイター150/125 シリーズの基本操作です。各モデル仕様により異なります。〕

メーター 【メーター表面デザインは機種により異なります】

ファイター150/125 シリーズ

ｽﾋﾟｰﾄﾞﾒｰﾀｰ
走行中の速度を表示します。法定速度を守りましょう。

距離計
走行距離の累計表示をします。

ﾊｲﾋﾞｰﾑﾊﾟｲﾛｯﾄﾗﾝﾌﾟ
ﾍｯﾄﾞﾗｲﾄをﾊｲﾋﾞｰﾑにした時に点灯します。

ウインカー表示灯
ウインカーを操作した時に右、または左の表示方向を点滅させて表示します。

燃料計

イグニッションスイッチが“OFF”位置では表示しません。
イグニッションスイッチが“ON”位置で燃料残量を表示します。“E”位置に近づいたら早めに給油して下さい。

オイル交換表示灯

エンジンオイル交換時期表示灯はエンジンオイルの交換時期目安を表示します。走行距離が 1000km 毎に点灯するので、点灯した場合はエンジンオイルを点検して補充又は交換して下さい。（エンジンオイルは必ず 1000km 毎に交換して下さい。交換されていない場合の不具合は保証対象外になりますので、ご注意下さい）エンジンオイル交換後は“M”ボタンを長押し（2 秒以上）する事でこの表示灯は消灯し、リセットが完了します。

トリップメーター

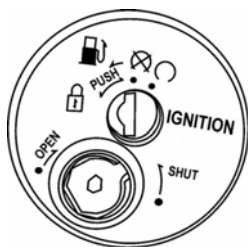
1. 総走行距離と区間走行距離の表示を切り替えることができます。
2. メインスイッチを“**ON**” したのちに“**M”**ボタンを押すとオドメーター、トリップメーター、時間と表示を切り替える事ができます。
3. トリップメーター表示時に“**S**”ボタンを長押しするとリセットができます。

時間設定

1. １２時間制で時間表示の設定ができます。
2. メインスイッチを“**ON**”すると１２時間表示で時間と分が表示されます。
3. 時刻を合わせる時は車両を停止させて、“**S**”ボタンを長押し（２秒以上）すると時刻設定モードになります。この時に 〝**S**〞 ボタンを押すと設定の切替モードになります。(押す毎に時間→ 十の位の分 → 一の位の分)それぞれのモードで 〝**M**〞 ボタンを1回押すごとに数字は1ずつ増えます。設定が出来たら 〝**S**〞 ボタンを長押し(2 秒以上)するとセットされます。

照明光度調節

1. ボタン 〝 〞 を押すごとに照明の明るさが調節できます。(最大照度から最小照度まで４段階)
2. エンジン停止後はその最後の設定を保持しています。

イグニッションスイッチの操作

マグネットキーシャッター

- 磁石式の盗難を防ぐ鍵で、マグネットキー部をマグネットキー穴にセットし、右に回すとキー穴のシャッターが閉じます。
- メインスイッチを使用する時は、左に回すとシャッターが開きます。

〝**スタート**〞位置

- この位置でエンジンは始動できます。
- キーは抜き取る事は出来ません。

〝**ストップ**〞位置

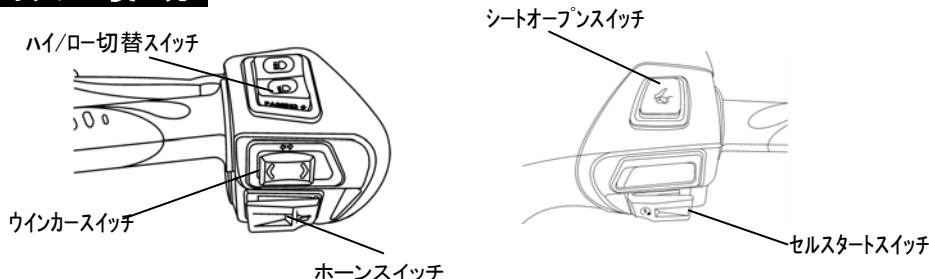
- エンジンをかけない時、エンジンを止める時に使います。
- キーは抜き取る事が出来ます。

〝**ガソリンタンク**〞位置

- この位置でｶﾞｿﾘﾝﾀﾝｸｷｬｯﾌﾟが開きます。
- キーは〝 〞からこの位置まで直接回す事が出来ます。
- 放すと〝 〞位置に戻ります。

〝**ハンドルロック**〞位置

- キーを押してから回して下さい。ハンドルがロックされます。
- キーは抜き取る事が出来ます。
- ハンドルロックを解除する時は〝 〞位置まで回して下さい。

スイッチの使い方

セルスタートスイッチ

スターターモーターでエンジンを始動する時にこのスイッチを使用します。

メインスイッチを〝ON〞位置にし、前輪又は後輪のブレーキをかけた状態でスイッチを押します。

注意！

- エンジン始動後はすぐにボタンから手を離して下さい。セルボタンを押し続けるとエンジンを傷める恐れがあります。
- 前輪か後輪のブレーキをかけていないと始動しない安全機構になっています。

ハイ/ロー切替スイッチ / シートオープンスイッチ

 ハイビーム

 ロービーム（市街地、すれ違い時はロービームをご使用下さい）

 メインスイッチが“ON”位置でこのスイッチを押すとシートのロックが解除されます。

ウインカースイッチ

- メインスイッチが〝ON〞位置の時にウインカースイッチを右、又は左にスライドさせるとウインカーライトが点滅します。解除する時はウインカースイッチを押すと消灯します。

右ウインカーライト点滅は右に曲がる事を表します。

左ウインカーライト点滅は左に曲がる事を表します。

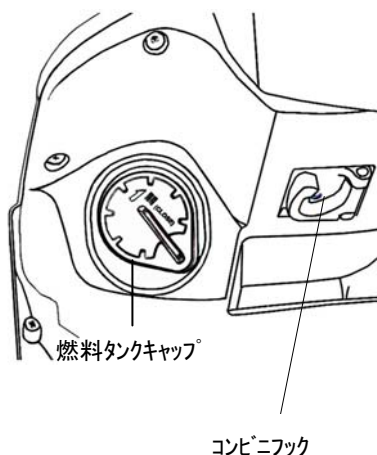
ホーンスイッチ

メインスイッチが〝ON〞位置の時にスイッチを押すとホーンが鳴ります。

ガソリンタンクキャップ

- メインスイッチキーをキー穴に差込み左に回します。燃料タンクキャップは自動的に開きます。
- 給油終了後は"カチッ"と音がしてキャップがロックされるまで押し付けながら右に回して閉めて下さい。

 注意！

- メインスタンドで駐車して車体が安定している事を確認し、給油時はエンジンを必ず停止し、火気は厳禁です。
- 給油時は勢いよく入れると吹き返しを起こして危険です。
- 燃料を給油する時は入れすぎないで下さい。走行時に異常が発生したり、排気ガス制御システムに影響する恐れがあります。
- 無鉛レギュラーガソリンを使用して下さい。

シートロック

- 解除方法： 1. シートロックキー穴にキーを差込み、左に回してロックを解除します。
  2. メインスイッチを〝ON〞位置にして、シートオープンスイッチ〝 〞を押します。
- 施錠方法：シートを押し下げると自動的にロックします。

注意！

- シートをロックする前にキーをボックス内から取り出したか確認して下さい。
- ボックス内に荷物を入れ過ぎてロック解除が困難な時はキーで開けて下さい。

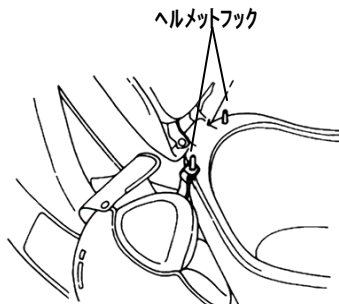
トランクボックス

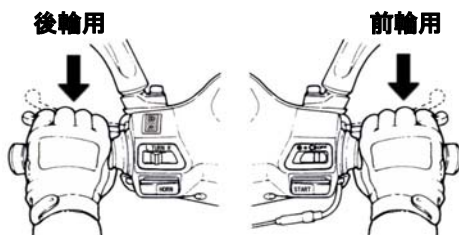
- シート下にトランクボックスがあります。
- 最大積載重量は 10kg です。
- シートを閉めた時は確実にロックされているか確認して下さい。
- エンジンの熱で温度が上がりますので、熱に弱い物は入れないで下さい。
- トランクボックスに貴重品は入れないで下さい。
- 洗車時は荷物を取り出してから行って下さい。

ヘルメットフック

- シートを開け、フックに掛けてからシートを閉めて下さい。

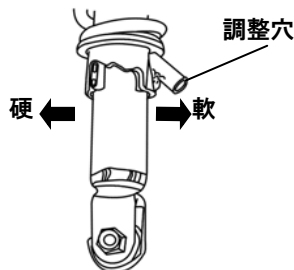
注意！

- フックにヘルメットを掛けたまま走行しないで下さい。車両を傷めたり、ヘルメットの機能低下にもつながります。

ブレーキ

- 不必要な急ブレーキは避けて下さい。
- ブレーキ時はまずエンジンブレーキから使い、前後のブレーキをバランスよく使用して下さい。
- ブレーキ時は前・後輪同時に使いましょう。
- 雨の日はスピードを抑えて、早めにブレーキをかけて下さい。
- 長時間連続してブレーキを使用しているとブレーキが過熱して、効きが悪くなります。

注意！

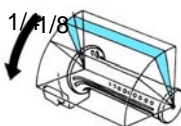
- 前輪のみや後輪のみのブレーキ操作は不安定になり、転倒しやすくなります。

調整式リヤサスペンション

- リヤサスペンションは道路状況や積載量に応じて調整する事ができます。
- リヤサスペンションは軟・普通・硬の三段階調整ができ、出荷時は普通になっています。
  1. 工具を調整穴に差込、左に回すと硬くなり、右に回すと軟らかくなります。

エンジン始動要領と注意事項

注意！

- エンジン始動前に必ずエンジンオイルとガソリンが充分にあるか、チェックして下さい。
- エンジン始動時は車両が急に飛び出さないように後輪ブレーキを必ずかけて始動して下さい。

1. イグニッションスイッチを〝ON〞位置まで回して下さい。
2. スロットルグリップを回さずにブレーキをかけた状態でスターターボタンを押して下さい。
3. エンジンが冷えている時はしばらく暖気運転をして下さい。

注意！

- スターターモーターを3～5秒回しても始動しない場合は、スロットルグリップを 1/8～1/4 ほど回してスターターボタンを押して下さい。
- スターターモーター保護の為、15 秒以上連続してスターターボタンを押さないようにして下さい。
- 5秒以上スターターボタンを押してもエンジンが始動しない場合は、10秒以上経ってから再度エンジンを始動して下さい。
- 長い間エンジンをかけていなかった車両や、ガソリンが空のままで給油したばかりの車両はさらに始動しにくいです。何度もスターターボタンを押す必要がありますが、スロットルグリップは回さずに始動して下さい。
- エンジンが冷えている時はエンジンが暖まるまで数分かかります。
- 排気ガスには有害物質（CO）が含まれます。換気のよい場所でエンジンを始動して下さい。

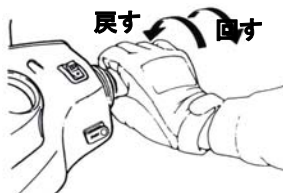
【キックペダルでエンジンを始動する場合】

- ステップ1の後、スロットルグリップを閉じたまま、キックペダルをキックして下さい。
- エンジンが冷えていてキックペダルでの始動が困難な場合は、スロットルを 1/8~1/4 ほど回してあげると、始動しやすくなります。
- エンジン始動後はキックペダルを元の位置に戻して下さい。

正しい走り方

- スタート前に方向指示器で合図を出し、後方の安全を確認してからスタートしましょう。
- スタート前にスタンドが収納されているか確認してからスタートしましょう。

スロットルバルブコントロール

- **回す**： 速度が速くなります。ゆっくり回しましょう
  登り坂ではスロットルグリップを徐々に
  回して力をつけましょう。
- **戻す**：速度を下げます。すばやく戻しましょう。

停車するとき

1. **止まる地点が近づいたら**
    - 早めに方向指示器で合図を出し、後方や側方の車両に注意し、徐々に左に寄りましょう。
    - スロットルを戻し、早めにブレーキをかけて下さい。
2. **完全に車両が止まったら**
    - 方向指示器を元に戻してイグニッションスイッチを〝OFF〞にしてエンジンを停止して下さい。

⚠ 注意！

- 走行中はイグニッションスイッチを操作しないで下さい。思わぬ事故を招く恐れがあります。
- サイドスタンドの使用は平坦では無い所や、一時的な停車時だけの使用にし、安定性向上のためにハンドルを左にいっぱい切った状態で使用して下さい。
- サイドスタンドでの駐車後はエンジンを始動する前にサイドスタンドを上げて下さい。思わぬ事故の原因となります。

3. エンジンが完全に止まってから車両左側より降りて下さい。交通の妨げにならない所で水平な場所を選び、メインスタンドで駐車して下さい。
4. ハンドルロックを掛けて、駐車後は車両盗難にあわないようキーを必ず抜いて下さい。

⚠ 注意！

- サイドスタンドは平坦ではない所や、一時的に止める時に使用します。使用する際は安定性を向上させるためにハンドルを左にして使用して下さい。
- 走行後はマフラーが大変熱くなっています。通行人や子供などが触れて火傷をしないように注意して駐車して下さい。

日常の点検

チェック項目		チ ェ ッ ク ポ イ ン ト
エンジンオイル		エンジンオイルの量は充分ですか？
ガソリン		量は充分ですか？〔 無鉛レギュラーガソリンに限る〕
ブレーキ	前 輪	ブレーキングの状態は？〔 ブレーキレバーの遊び：10～10mm〕
	後 輪	ブレーキングの状態は？〔 ブレーキレバーの遊び：10～10mm〕
タイヤ	前 輪	空気圧は正常ですか？〔 標準 1.75kg/㎠〕
	後 輪	空気圧は正常ですか？〔 標準 1.75kg/㎠〕
ステアリングハンドル		ハンドルが異常に振動したり、操作が重くないですか？
ﾒｰﾀｰ、ﾗｲﾄ、ﾊﾞｯｸﾐﾗｰ		正しく作動しますか？ライトは点灯しますか？後方は確認できますか？
車体各部の締め付け状態		ボルト、ナットの緩みはありませんか？
異常のあった箇所		以前のトラブルは直っていますか？

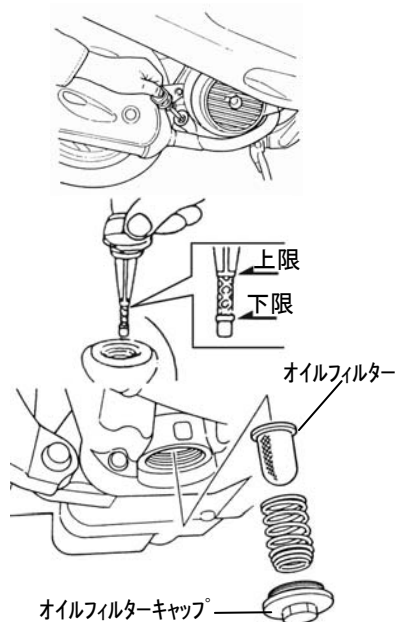
注意！
- 日常の点検で何か問題が見つかった場合はすぐに修理をして下さい。必要な場合はお買い求めの SYM 特約店に車両をお持込いただき、修理を依頼して下さい。

エンジンオイルの点検と交換

- メインスタンドを使用して水平で安定した場所に車両を置いて下さい。エンジンを止めて 2~3 分後にレベルゲージを抜いて、オイルを拭取って再度入れて下さい。（回転はさせない）
- レベルゲージを抜取りオイルレベルが上限、下限の間にあるかどうか確認して下さい。
- オイルが下限付近の時は補充して下さい。
- エンジンオイルは **SAE 10W-30 API SH/CD** グレード以上のものをご使用下さい。低グレード、低品質オイルをご使用の場合はメーカー保証の対象外です。
- オイル容量 ： 1.0 ﾘｯﾄﾙ(交換時 ： 0.8 ﾘｯﾄﾙ)
- オイルは 1000km 毎に交換して下さい。

【オイルフィルター清掃】

- ｵｲﾙﾌｨﾙﾀｰｷｬｯﾌﾟを開けて、ｵｲﾙﾌｨﾙﾀｰを取り出します。ｶﾞｿﾘﾝ又はｴｱｶﾞﾝを使ってきれいに清掃して下さい。
- ｵｲﾙﾌｨﾙﾀｰはｴﾝｼﾞﾝの右下にあります。

注意！
- 傾斜していたり、エンジン停止直後は正確なオイル量は確認できません。
- ｵｲﾙ交換時はﾌｨﾙﾀｰも同時に清掃して下さい。

ガソリンの点検

- ガソリンは無鉛ﾚｷﾞｭﾗｰのみを使用して下さい。ﾒｲﾝｽｲｯﾁを〝ON〞位置にしてガソリン残量を確認して下さい。
- 給油の時はメインスタンドで駐車し、エンジンを止めて火気の無い状況で行って下さい。
- 給油時は上限を超えて給油しないで下さい。走行中にトラブルを起こしたり、排気ガス制御機構に影響を及ぼす恐れがあります。

トランスミッションオイルの点検と交換

点検：

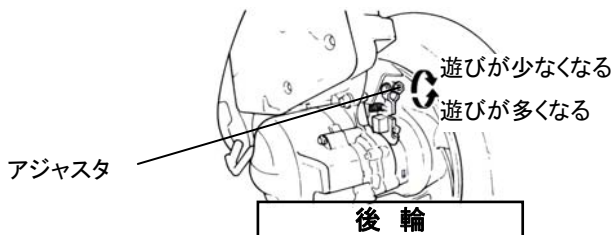
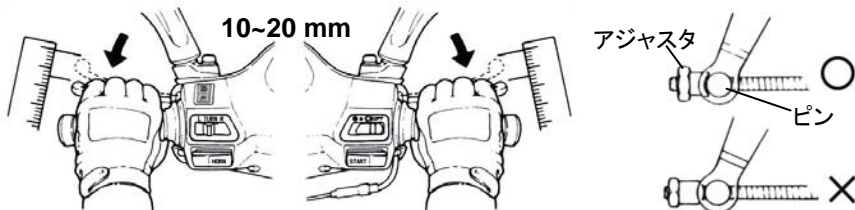
- 水平で安定した場所にメインスタンドを使用して車両を止めます。エンジンを止めてから 3~5 分待ってﾄﾗﾝｽﾐｯｼｮﾝｵｲﾙｲﾝﾌｭｰｼﾞｮﾝﾎﾞﾙﾄを外し、ﾄﾞﾚﾝﾎﾞﾙﾄの下に計量ｸﾞﾗｽを置いてからﾄﾞﾚﾝﾎﾞﾙﾄを外して下さい。出てきたｵｲﾙを計量してｵｲﾙ量の点検をして下さい。
  (全容量：110c.c. / 交換時：90~100 c.c.)。

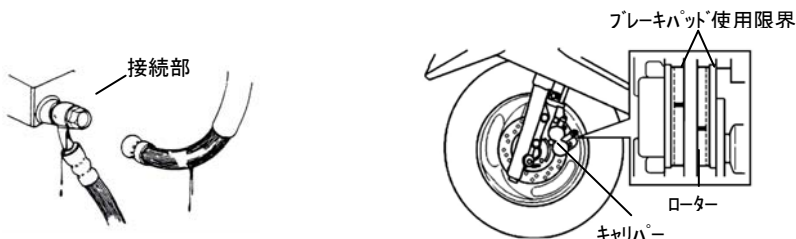
交換：

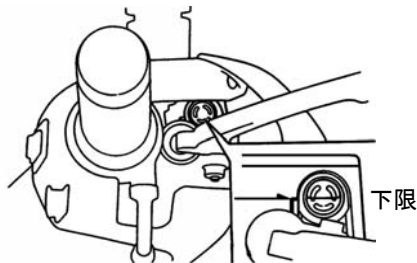
- エンジンを止め、メインスタンドを使用して水平で安定した場所に車両を止めて下さい。ｲﾝﾌｭｰｼﾞｮﾝﾎﾞﾙﾄとﾄﾞﾚﾝﾎﾞﾙﾄを外してオイルを抜き取って下さい。
- ﾄﾞﾚﾝﾎﾞﾙﾄを戻し、しっかりと締めて下さい。新しいﾄﾗﾝｽﾐｯｼｮﾝｵｲﾙ(90~100 cc.)を入れて下さい。ｲﾝﾌｭｰｼﾞｮﾝﾎﾞﾙﾄを戻し、しっかりと締めて下さい。（ﾎﾞﾙﾄがしっかり閉まっているか、ｵｲﾙ漏れがないかを確かめて下さい）

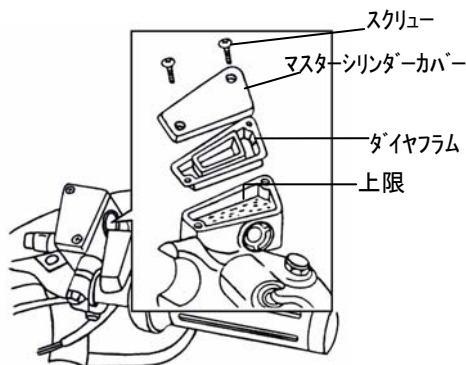
※ 推奨オイル：SYM 純正ハイポイドギヤオイル(SAE 85W-140)
※ 外気温度が 0℃になる地域では SAE85W-90 をお使い下さい。

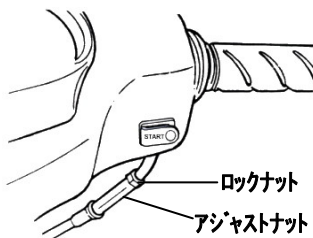
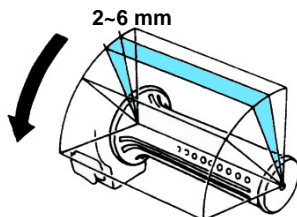
ドラム式ブレーキの遊びの点検と調整

- 後輪ブレーキアームのアジャスタを回してブレーキレバーの遊びを調整します。
- 調整後はブレーキを握ってみて、ブレーキの効き具合を確認して下さい。
- スケールなどを使って遊びを測って下さい。遊びは 10～20mm です。
- 定期的に SYM 特約店でブレーキの点検をして、ブレーキライニングの磨耗がひどい場合は交換して下さい。
- アジャスタの凹部がピンにかみ合う位置にして下さい。〔 右下図参照〕 。

ディスクブレーキの点検〔 ディスクブレーキ装着車に適用〕

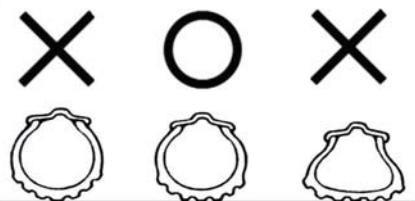
- 目視にてブレーキラインの漏れ、損傷を確認して下さい。レンチ等の工具によりブレーキライン接続部に緩みがないかを確認して下さい。ステアリングを回してブレーキラインに損傷を起こしそうな部分がないかチェックして下さい。
- **万一漏れや損傷などがあった場合は車両を SYM 特約店にお持込になり修理を依頼して下さい。**
- ﾌﾞﾚｰｷを作動させ、パッドの磨耗をﾁｪｯｸして下さい。ｷｬﾘﾊﾟｰ後方から点検してﾌﾞﾚｰｷﾊﾟｯﾄﾞの使用限界部分がﾛｰﾀｰに当たっている場合はパッドを交換して下さい。

- 車両を安定した場所に停めて、オイルレベルが下限を下回っていないかチェックして下さい。推奨オイル: WELL RUN〔 DOT 3〕 ブレーキオイル

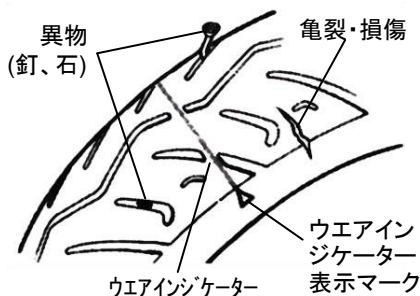
> ⚠ **注意！**
> - 車両が傾いていると正確なオイル量が測れません。
> - 化学変化の恐れがあるので、種類の違うオイルを混ぜて使わないで下さい。
> - 補充時は上限を超えない事。塗装面を傷めるので塗装部やプラスチックに付着させないように注意して下さい。

- ｽｸﾘｭｰを緩め、ﾏｽﾀｰｼﾘﾝﾀﾞｰｶﾊﾞｰを外す。
- ﾘｻﾞｰﾊﾞｰ内に異物が入らないように異物や汚れを拭取って下さい。
- ﾀﾞｲﾔﾌﾗﾑを外します。
- ﾌﾞﾚｰｷｵｲﾙを上限まで補充して下さい。
- ﾀﾞｲﾔﾌﾗﾑとﾏｽﾀｰｼﾘﾝﾀﾞｰｶﾊﾞｰを取付ける。
- ﾀﾞｲﾔﾌﾗﾑの向きと異物の混入に注意しながらｶﾊﾞｰを閉めて下さい。

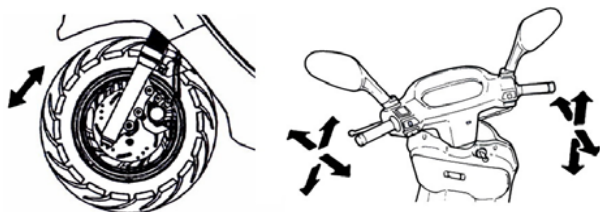
> ⚠ **注意！**
> - 点検や補充時はエンジンを停止させてから行って下さい。

スロットルバルブクリアランスの調整

- 2~6mm の遊びでクリアランスを調整して下さい。
- 調整時はまずロックナットを緩めてから調整ナットを回して調整します。調整後はロックナットを確実に締めて下さい。
- 調整完了後はスロットルの回転、ハンドルの左右への動きに異常がないか、ケーブルが干渉していないかを確認して下さい。

> ⚠ **注意！**
> - 高速走行時のスピードコントロールに危険が無いように注意して調整して下さい。

タイヤの点検

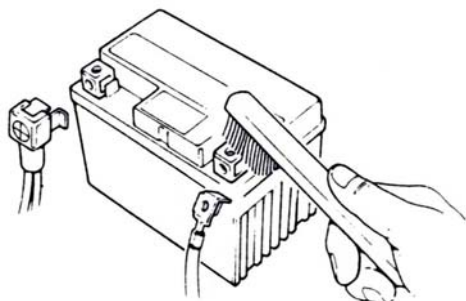
- エンジンを止めてから、タイヤの点検や空気圧調整をして下さい。
- タイヤの接地面の形状が異常な時は、エアゲージで点検して、指定空気圧に調整して下さい。
- タイヤ空気圧はタイヤが冷えている状態でエアゲージによりチェックして下さい。

標準タイヤ空気圧スペックを参照

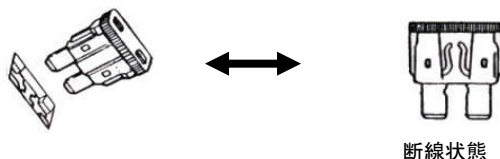
- 亀裂や損傷はタイヤ前面、横面まで確認して下さい。
- ウエアインジケーターをチェックしてタイヤの磨耗具合を確認して下さい。
- ウエアインジケーターが出てきた場合はタイヤを交換して下さい。

フロントサスペンションの点検

- エンジンを止めて、キーを抜いてから点検を行って下さい。
- ｻｽﾍﾟﾝｼｮﾝに損傷が無いか目視で確認して下さい。
- ハンドルを上下に動かして異音や曲がりが無いか確認して下さい。
- レンチ等でボルト、ナットの締まり具合を確認して下さい。
- ﾊﾝﾄﾞﾙを上下、左右、前後に揺らして、ｶﾞﾀや過剰な抵抗、ﾊﾝﾄﾞﾙ取られが無いか確認して下さい。
- ﾌﾞﾚｰｷｹｰﾌﾞﾙ等でﾊﾝﾄﾞﾙが取られないか確認して下さい。
- 万一異常があった場合は SYM 特約店で点検修理をお受け下さい。

バッテリーの点検とメンテナンス

- この車両には補水不要のﾒﾝﾃﾅﾝｽﾌﾘｰﾀｲﾌﾟのﾊﾞｯﾃﾘｰを装備しています。万一異常があった場合は SYM 特約店にご相談下さい。
- バッテリー端子に汚れや腐食があるときは取外して清掃して下さい。
- バッテリー取外し手順：
- イグニッションスイッチを〝OFF〞にして、先にナイナスケーブルを外し、それからプラスケーブルを外します。

注意！
- 密閉タイプのバッテリーなので、キャップは絶対に外さないで下さい。
- バッテリーは長期間使用しないでいると自己放電します。長期間使用しない場合は車両から外して通風のある冷暗所に保管するか、マイナスケーブルを外しておくようにして下さい。
- バッテリーを交換する時は、メインスイッチを“OFF”にしてから行って下さい。また、交換する時は必ず密封式メンテナンスフリーバッテリーで指定規格のものを使用して下さい。
- エンジン回転中はバッテリーの端子を外さないで下さい。電気部品の故障原因となります 。

注意！
- 端子に白粉が付着している時はぬるま湯で清掃して下さい。
- 端子に腐食が激しい時は金ブラシかサンドペーパーで清掃して下さい。
- 清掃後は端子にグリスを塗ってからケーブルを取付けて下さい。
- バッテリー取付時は取外しの逆手順で取付けて下さい。

ヒューズの点検と交換

イグニッションスイッチを"OFF"にしてヒューズが切れていないか確認して下さい。
ヒューズはトランクボックスを外して右ボディカバー裏側にあります。ヒューズボックスカバーを開けて引き抜いて下さい。そしてヒューズ切れが無いか確認して下さい。
夜間走行中、ヒューズが切れてライトが突然消える等の事象が起きる事もあります。
ヒューズを交換する場合は指定アンペア数以上のヒューズや銅線、鉄線を代わりに使用する事は、配線の過熱、焼損の原因となるので絶対に使用しないで下さい。
ヒューズを替えてもすぐに切れてしまったり、原因不明で切れてしまう場合はお買い求めの SYM 特約に車両をお持込いただき、点検してもらって下さい。

断線状態

フロント及びリヤライトの点検

- エンジンを始動してヘッドライトとテールライトが点灯しているか確認して下さい。
- ヘッドライトの明るさと方向を壁などに当てて確認して下さい。
- ライトレンズに汚れ、ひび割れ、緩みが無いか確認して下さい。

ブレーキライトの点検

- イグニッションスイッチを〝ON〞位置にして前後輪のブレーキレバーを握って、ブレーキライトの点灯を確認して下さい。
- ブレーキライトレンズに汚れ、亀裂、緩みが無いか確認して下さい。

方向指示器とホーンの点検

- イグニッションスイッチを〝ON〞位置にして下さい。
- 方向指示器のスイッチを作動させて前後左右のライト点滅を確認して下さい。
- 方向指示器のレンズに汚れ、ひび割れ、緩みが無いか確認して下さい。
- ホーンボタンを押してホーンが鳴るか確認して下さい。

注意！

- 方向指示器ライト球は規定の規格バルブを使用して下さい。異なった規格のバルブを使用すると、正常な作動ができない恐れがあります。
- 後続車に注意を促すために方向転換や進路変更時は方向指示器を点灯させて合図して下さい。
- 方向指示器は、使用後直ちにボタンを押して解除して下さい。点灯させたままですと他の車両の迷惑になり、大変危険です。
- 電装系の改造は負荷が大きくかかりショートの原因にもなり、車両焼失の恐れもあります。絶対にしないで下さい。

ガソリン漏れの点検

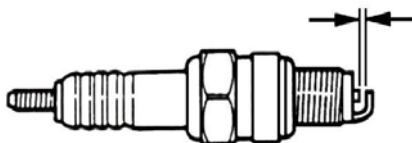
- ガソリンタンク、給油口キャップ、ガソリンホース、キャブレターの漏れを確認して下さい。

車両各部の給脂状態の点検

- 車体の各ピボット部分のグリスが充分か確認して下さい。
  (例：メインスタンド、サイドスタンド、ブレーキレバーのピボット部等)

スパークプラグの点検

0.6~0.7 mm

- プラグキャップを外し、プラグを取外します。
- 電極の汚れ、カーボン付着を確認して下さい。
- カーボン汚れは金ブラシで磨き、ガソリンで洗浄したのち、布でよく拭き完全に乾かして下さい。
- 電極隙間を点検してギャップを 0.6~0.7mm に調整して下さい。 (ギャップツールを使用)
- スパークプラグは手で締めた後、さらにレンチで 1/2~3/4 回転締付けて下さい。

警告！：走行後はエンジンが大変熱いので、ヤケドに注意して下さい。
※メーカー推奨規格のスパークプラグを使用して下さい。(スペック表参照)

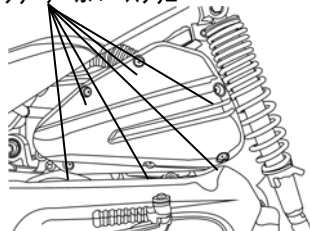
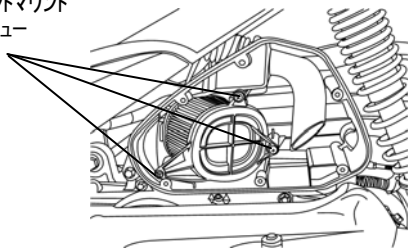
エアクリーナーの点検

エアクリーナーが汚れていると出力減少や燃費悪化の原因になります。

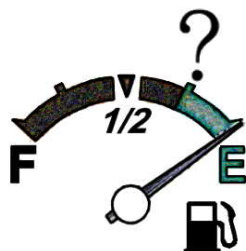
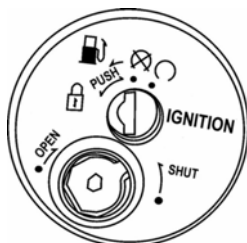
〈取外し手順〉

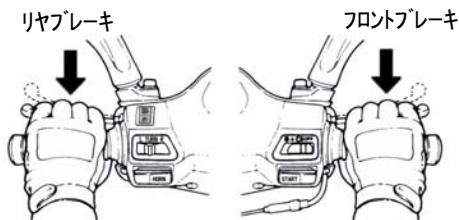
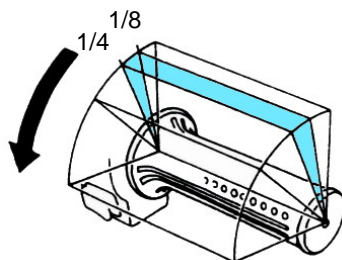
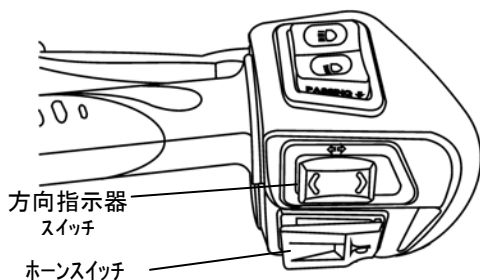
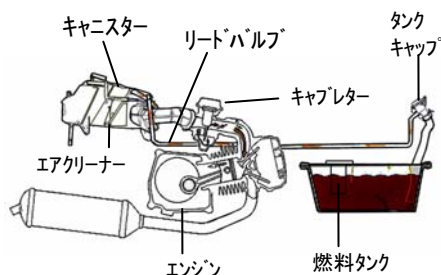
1. 左ボディカバーを取外す。
2. スクリューを緩めエアクリーナーカバーを取外す。
3. エアクリーナーエレメントを取外す。
4. エレメントの汚れを点検し、清掃する。汚れがひどい場合は交換して下さい。

〈取付け手順〉

・ 取外しの逆手順にて取付けをして下さい。

⚠ 注意！

- ｴｱｸﾘｰﾅｰが正しく装着されていないとｺﾞﾐや汚れを直接吸ってｼﾘﾝﾀﾞｰの磨耗や出力低下を起こし、エンジンの耐久性に悪影響を与えますので確実に取付けて下さい。
- 洗車する時にｴｱｸﾘｰﾅｰが濡れるとｴﾝｼﾞﾝが始動できなくなる恐れがあります。
- エアクリーナー後方にブリーザードレンがありますので、2000 ｷﾛ毎に堆積物を排出して下さい。

エンジンが始動しないとき

1. ｲｸﾞﾆｯｼｮﾝｽｲｯﾁは“ ON” 位置にありますか？

2. ガソリン残量は充分ですか？

3. ｾﾙﾎﾞﾀﾝを押す時に前または後ﾌﾞﾚｰｷをかけていますか？

4. ｾﾙﾎﾞﾀﾝを押しながら、ｽﾛｯﾄﾙを回し過ぎていませんか？

5. ｲｸﾞﾆｯｼｮﾝｽｲｯﾁを“ ON” 位置にしてﾎｰﾝﾎﾞﾀﾝを押して下さい。ﾎｰﾝが鳴らない場合はﾋｭｰｽﾞが切れているかもしれません。
   上記に該当するところがなくｴﾝｼﾞﾝが始動しない場合はお買い求めの SYM 特約店にご相談下さい。

蒸発ガスコントロールシステム

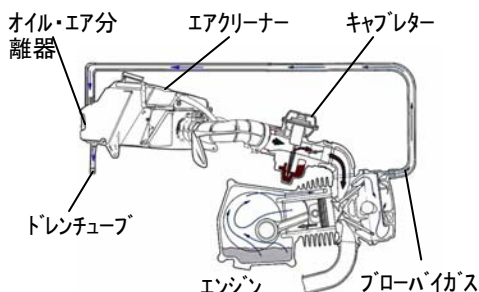
システム：
ガソリンタンク内等の蒸発ガスは蒸発ガスコントロールシステム内の各パイプに流れ込み大気中に放出されないようにしています。蒸発ガスはキャニスターに導かれキャニスターの炭素粒子に一時的に吸収されエンジン始動時に負圧により燃焼室内に導かれ燃焼されます

二次空気供給システム

システム：
エンジン排気管内に二次空気を導入する事により、未燃焼ガスを再度排気管内で燃焼させ、CO、HC は無害の CO_2、H_2O として排出される。

触媒還元装置

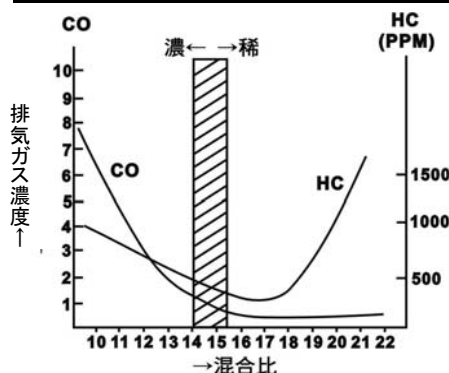
システム：
触媒還元装置はマフラー内にあり、不完全燃焼ガスの HC、NOx はマフラー内で触媒による反応により、無害の CO_2、H_2O、N_2 に還元されて排出される。

ブローバイガス還元システム

システム：
エアクリーナーに取り付いたオイル・エア分離器にエンジンからのブローバイガスが流れ込みます。分離されたエアはエンジン負圧により、エンジンに吸い込まれ燃焼される。オイルはドレンチューブ内に溜まるので、定期的に抜いて下さい。

注意！
- 必ず無鉛レギュラー以上のガソリンを使用して下さい。粗悪ガソリンは触媒を傷めます。
- 下り坂等でキーOFF のまま走行する事はやめて下さい。触媒に損傷を与える恐れがあります。

キャブレター式エンジン仕様

CO	HC	原因
高	正常	ｶﾞｿﾘﾝと空気の混合比率が濃い
正常	高	1. 点火系統不良: • 点火タイミング不良 • プラグの汚れ、ギャップ不良 • C.D.I.点火ユニット不良 • 点火コイル不良 2. ｴｷｿﾞｰｽﾄﾊﾞﾙﾌﾞ磨耗 3. ｼﾘﾝﾀﾞｰ磨耗
低	高	1. 混合気が濃すぎ、薄すぎで点火不良 2. エア漏れ: • 負圧チューブ漏れ • インレットパイプ漏れ • 点火プラグガスケット漏れ
高	高	1. エアクリーナー汚れ 2. キャブレター不良: • 混合気が濃すぎる • フロート油面不良 • チョーク不良 • ｱｲﾄﾞﾙｴｱｽｸﾘｭｰ、ﾆｰﾄﾞﾙﾊﾞﾙﾌﾞ磨耗 3. PCV ﾊﾞﾙﾌﾞの緩み 4. 觸媒還元装置の劣化

排気ガス煙異常の原因
1. エンジンオイル過剰 2. ｵｲﾙﾎﾟﾝﾌﾟ不良 3. 粗悪オイル又は低質オイルの使用 4. エンジンの老化、磨耗 5. 長時間の低速使用(時速 20～30km/h 以下) 6. マフラー内のカーボン堆積による汚れ

排気ガス中の環境汚染物質：ガソリンの不完全燃焼は CO と HC を発生させる大きな要因で、ガソリンの浪費にもつながります。車両の性能維持と、排気ガスの減少、ガソリン節約のためにも定期的な点検とメンテナンスが重要です。

1. エアクリーナーの清掃と交換：
エアクリーナーはシリンダーに吸い込まれる空気のホコリや汚染物質をろ過する役割をしています。汚れていては空気はスムーズに流れません。通気性が悪いと空気量が減り、混合気が濃くなり不完全燃焼し、パワーダウンや燃費の悪化、排気ガス濃度の上昇をおこします。こまめに清掃し、清掃しても通気性が確保できない場合は交換して下さい。また交換する際は必ず SYM 純正エアクリーナーを使用して下さい。純正以外では適正な性能を維持できない恐れがあります。

2. キャブレターの調整と交換：
キャブレターの調整が悪いとガソリンと空気の混合比率が濃すぎたり、薄すぎたりして不完全燃焼を起こし、パワーダウンや燃費の悪化、排気ガス濃度の上昇をおこします。
キャブレター不良の主な原因：
⑴ｷｬﾌﾞﾚﾀｰ油面：油面は必ず規定通りに調整して下さい。
⑵チョーク不良：チョークの作動不良は空燃比に影響します。
⑶キャブレター詰り：汚れによりエア通路、ガソリン通路が詰まると空燃比が狂います。清掃し、それでも詰りが解消出来ない場合は交換して下さい。

3. 点火プラグの清掃、調整と交換：
点火プラグの汚れを清掃し、ギャップを調整します。電極に磨耗や異常がある時は交換して下さい。不良なプラグは不完全燃焼や燃費の悪化、パワーダウンを招きます。

4. バルブクリアランスの調整：
バルブシートの磨耗、密閉不良、バルブクリアランスの調整不良は不完全燃焼の原因となります。定期的に点検調整をして、磨耗している場合は交換して下さい。また、バルブクリアランスの調整は正確に調整されていなければなりません。

5. オイル交換時は上限を超えない：
オイル量が過剰な場合、燃焼室までｵｲﾙが上がり炭素がたまります。混合気の燃焼に影響し、パワーダウンや燃費の悪化を招きます。

6. 点火時期は確実に合わせて下さい：
強力な火花で完全燃焼するとエンジンパワーは大きくなり、ガソリンの節約、排気ガス減少につながります。異常時はすぐに CDI ユニットを交換して下さい。

7. エンジンの老化や磨耗はガソリン浪費につながります。部品の点検を受けて下さい。

8. 燃料及び点火系統を常に良好な状態に保つ事は、間違いなくガソリン節約と環境汚染減少になります。

9. 燃費節約のポイント：
⑴暖機運転を行ってから走行して下さい。
⑵不要な急加速、急ブレーキはおやめ下さい。
⑶停車時は早めに減速して、急ブレーキは避けましょう。

項　　目	Fighter 4V 150
全長/全幅/全高	1,985 mm / 700 mm / 1,105 mm
重量/ﾎｲｰﾙﾍﾞｰｽ/ｼｰﾄ高	123 kg / 1,342 mm / 780 mm
最小回転半径	1.9 m
フロントブレーキ	ディスクタイププブレーキ (ø226mm)
リヤブレーキ	ドラムタイププブレーキ (ø130mm)
サスペンション (前/後)	テレスコピック/ ユニットスイング(3段階調整式)
タイヤサイズ	前輪 110/80-12 61L / 後輪 130/70-12 64L
タイヤ空気圧(1人乗車時)	前輪 1.75 kg/㎠ / 後輪 2.25 kg/㎠
タイヤ空気圧(2人乗車時)	前輪 1.75 kg/㎠ / 後輪 2.5 kg/㎠
ヘッドライト (ハイ/ ロー)	12V 25W / 25W ×2
ﾃｰﾙﾗｲﾄ / ﾌﾞﾚｰｷﾗｲﾄ	12V　5W / 21W ×1
ﾌﾛﾝﾄ / ﾘﾔｳｲﾝｶｰ	LED ×4
ﾒｰﾀｰ(ｳｲﾝｶｰ)	12V 1W ×2
ﾒｰﾀｰ(照明)	LED
ﾒｰﾀｰ(ﾊｲﾋﾞｰﾑ)	12V 1W ×1
ヒューズ	15A×2/10A×1
バッテリーサイズ	YTX7A-BS/GT7BS(密閉ﾒﾝﾃﾅﾝｽﾌﾘｰﾀｲﾌﾟ)/ 12V 6Ah
スパークプラグ(標準)	CR8E
エンジン方式	4サイクル/4バルブ/ｾﾗﾐｯｸｺｰﾄｼﾘﾝﾀﾞｰ/強制空冷ｴﾝｼﾞﾝ
ｼﾘﾝﾀﾞｰ内径×ｽﾄﾛｰｸ	Ø57.4 ㎜×57.8 ㎜
総排気量/ 圧縮比	149.6 cc / 11.2：1
最大出力	11.95 ps / 7,500 rpm
最大トルク	1.24 kg-m / 6,000 rpm
ｴﾝｼﾞﾝ回転数 (ｱｲﾄﾞﾘﾝｸﾞ)	1,700 ±100 rpm
登坂能力	28°以下
点火方式	C.D.I
始動方式	セル＆キック式
燃料タンク容量	6.6 ﾘｯﾄﾙ(無鉛ﾚｷﾞｭﾗｰ)
ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙ容量	1.0 ﾘｯﾄﾙ (交換時 0.8 ﾘｯﾄﾙ)SAE 10W30 API SH/CD
ﾄﾗﾝｽﾐｯｼｮﾝｵｲﾙ容量	110 c.c. (交換時 100 c.c.)SAE 85W-140(寒冷地：85W−90)